



新潟県下統一広報企画『Do you 農・JA?』は、農産物を生産する農家さんと農産物の生産をお手伝いしているJAの営農担当職員を特集します。

当JAからは県内でも先進事例地域でもあるJA北魚沼GAP部会の仕事内容やJAとの関係性、それぞれの想いや今後の目標を部会長の葦沢庄一郎さんと営農指導課の小林和広指導員の対談形式で紹介いたします。



営農指導課 **小林 和広** 指導員 (36才)

プロフィール

平成16年入組 平成23年から営農指導課 稲作担当に配属。稲作指導のほか、有機栽培部会、新之助研究会、GAP部会の事務局を担当。

JA北魚沼
GAP部会 **葦沢庄一郎** 部会長 (66才)

経営面積 田 1.6畝
畑 12畝 (うち アスパラ 6畝)

野菜を百菜花んや下倉直売所へ出荷

GAP(農業生産工程管理)とは?

Good Agricultural Practice の略。直訳は『良い農業の実践』で、農業生産に関わる工程管理を定めた規格を指します。

JA北魚沼GAP部会は平成24年12月に北魚沼米のブランド力向上と地域営農活動の持続的発展を目的に発足。平成25年8月にはJGAP団体認証を17農場172畝と国内最大級規模での認証を取得。JAと行政が密接に連携し、多くの生産者が容易に農業生産管理工程(GAP)に取り組める仕組みを構築したことが平成26年7月には日本GAP協会から評価され、GAP普及大賞を受賞しました。

現在は21農場207畝に規模を拡大しています。



お二人の関係はいつごろからですか？
また日頃はどのようなおつきあいをされていますか？

荻沢：以前からJAの職員として顔を知っていたものの、仕事上では稲作指導員として指導を受けるようになってからです。JGAP部会の部会長と部会事務局として、いろいろな相談や提案・サポートを受けています。

GAPを始めたきっかけは？

小林：魚沼米は、魚沼米憲章をもとに作られています。以前からも生産者の取り組み点検シートや生産工程管理シートなどで管理していましたが、安全に対する意識をより高めるために高度なGAP認証に挑戦しました。



会議の入念な打合せを行う



農場の管理にも厳しい規準を設けている

GAPへの取り組みについて

荻沢：毎日の行動管理を記録することは栽培技術の向上に繋がっていると思います。肥料や農薬の使用を記録に残すことよって毎年の米作りにも影響してきます。

おいしいのはあたりまえですが、安全安心もあたりまえの栽培で、どちらも日本一を目指しています。

小林：米農家さんはみんな努力しておいしいお米を作っています。産地間競争が激化している中、おいしいプラスαの努力が必要と考えています。JGAPを活用してコストの削減と北魚沼産コシヒカリの差別化を図り、先を見据えた取り組みを考えています。

日頃の業務内容

小林：部会員のサポートや、研修会の開催、市・県・関係機関との調整の他、J-GAP指導員の指導も行っています。

農家さんとJAがちゃんと繋がることを大切にし、ちょっとしたことでも相談できる関係を築き、身近な存在でいたいです。
所得増大・生産の拡大のためJAとして、更にサポートしていきたいと思っています。

今後の目標やJAについて

荻沢：安全な農産物を消費者に提供することは生産者の責務。これは一人の力では達成できないと思います。JAや行政のもと一丸となり、今以上に信頼される産地に発展していけるように取り組んで行きたいと思っています。

小林：JAではGAPの普及拡大に向け、生産現場で指導できる職員を増強して体制を整えています。生産者が、生産に集中できるようにJAとしても最大限サポートしていきたいと思っています。取り組みを地域全体に広げ、北魚沼産コシヒカリの産地として、栽培技術はもちろん、安全・安心、労働安全など、技術以外の面でもレベルアップを図っていききたいと考えています。



GAP普及大賞を受賞



GAP Japan 2014. 東京大学で講演した小林指導員